

日本建築学会による保育施設の音環境 推奨値

◆ 推奨値

保育施設における諸室に必要な音響性能は、基本的には学校施設の音環境保全規準と同であるが、ここでは特に保育施設に必要な性能、すなわち、円滑な言語コミュニケーションと睡眠妨害防止の点を考慮して、以下に室内騒音レベルと残響時間の推奨値を示す。

◆ 室内騒音推奨値

室・場所		推奨値
A	静かな状態が必要とされる室 保育室(午睡、休息)	35dB
B	静かな状態が望ましい室 保育室(歌、お話し、遊び、食事など)遊戯室	40dB

◆ 残響時間推奨値

響きの程度	室・場所	残響時間	(参考)平均吸音率
短めの響きが適する室	保育室(単一クラス利用)	0.4秒(125m ³ 程度)※1	0.25程度
	保育室(複数クラス利用)	0.5秒(250m ³ 程度)※2	
	遊戯室	0.7秒(600m ³ 程度)※3	

※1、一般の保育室(床面積50m²程度×高さ2.5m程度)の広さの部屋

※2、一般の保育室の約2倍の床面積の室

※3、床面積150m²程度×高さ4m程度の広さの部屋)

※日本建築学会「学校施設の音環境 保全基準・設計指針(AIJES-S0001-2020)」付属書B より引用